

環境報告書2013 環境マネジメントシステムの概要 資料

平成24年度 部局独自の取り組み

環境目標の達成度評価基準



達成率100%以上



→達成率80%以上



→達成率80%未満

方針	目的	目標	具体的な取り組み	達成度 ()内は 実績値															
教育	1.持続可能な社会の実現に向けて、地球規模で環境を学んで地域に立脚し実行できるよう、鋭い観察力、強靱な思考力、的確な判断力を養うための環境教育プログラムを開発し、先進的な環境知識と行動力、環境マインドを兼ね備えた学生を社会に輩出する。	環境マインドの育成	<p>評価：人文学部、教育学部、生物資源学部、地域イノベーション学研究科は、『「実践・現場重視型の環境教育」の充実』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施回数を設定しています。 実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。</p>																
			「実践・現場重視型の環境教育」の充実	<table border="1"> <tr> <td>人文学部</td> <td>学部の環境教育科目の実施数拡大に向け検討をする(検討回数)</td> <td>(2回)</td> </tr> <tr> <td>教育学部</td> <td>学部の環境教育科目の履修者数の25年度拡大に向け検討をする。(検討回数)</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">根拠 生物資源学部</td> <td>学部の環境教育科目実施数の拡大を平成25年度に向けて呼びかける</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>学生に対して講義・実習の発展型として体験の場を提供する</td> <td>(2回)</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション学研究科</td> <td>エアコンのリモコン付近に冷暖房の適切な温度を表示し、学生と教職員全員が意識するように努める。</td> <td>(2回)</td> </tr> </table>	人文学部	学部の環境教育科目の実施数拡大に向け検討をする(検討回数)	(2回)	教育学部	学部の環境教育科目の履修者数の25年度拡大に向け検討をする。(検討回数)	(1回)	根拠 生物資源学部	学部の環境教育科目実施数の拡大を平成25年度に向けて呼びかける	(1回)	学生に対して講義・実習の発展型として体験の場を提供する	(2回)	地域イノベーション学研究科	エアコンのリモコン付近に冷暖房の適切な温度を表示し、学生と教職員全員が意識するように努める。	(2回)	
			人文学部	学部の環境教育科目の実施数拡大に向け検討をする(検討回数)	(2回)														
			教育学部	学部の環境教育科目の履修者数の25年度拡大に向け検討をする。(検討回数)	(1回)														
			根拠 生物資源学部	学部の環境教育科目実施数の拡大を平成25年度に向けて呼びかける	(1回)														
				学生に対して講義・実習の発展型として体験の場を提供する	(2回)														
		地域イノベーション学研究科	エアコンのリモコン付近に冷暖房の適切な温度を表示し、学生と教職員全員が意識するように努める。	(2回)															
		学際的環境教育システムの構築と運用	<p>評価：人文学部、教育学部、地域イノベーション学研究科は、『学際的環境教育システムの構築と運用』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施回数を設定しています。 実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。</p>																
		人文学部	学部の環境教育科目の履修者数の拡大に向けた方策を検討をする(検討回数)	(2回)															
		根拠 教育学部	「持続発展教育プログラム」授業分を実施する。	(2回)															
		地域イノベーション学研究科	博士前期課程と博士後期課程の研究内容に関するプロジェクトマネジメント調査書の検討事項の一つに環境問題やエネルギーコストを意識する項目を追加する	(1回)															
		学内外の環境教育プロジェクトへの支援と連携	<p>評価：各学部は、『学際的環境教育システムの構築と運用』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施回数を設定しています。 実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。 医学部に関しては、全学目標として共通教育を通じ取り組みを実施しました。</p>																
人文学部	環境ISO審査の際に同時に行われる環境資格支援プログラムに協力する	(2回)																	
教育学部	環境管理推進センター員から環境教育プロジェクトの提案及び報告を受け学部で共有する(メール等活用し報告)	(11回)																	
根拠 工学部	工学部環境管理推進センター員から、全学委員会報告として教授会で報告して学部内で共有し、支援と連携を促進する。	(11回)																	
生物資源学部	環境に関わるインターシップ充実を呼びかける	(1回)																	
地域イノベーション学研究科	スマートキャンパス計画に積極的に参加する。	(9回)																	

環境報告書2013 環境マネジメントシステムの概要 資料

平成24年度 部局独自の取り組み

環境目標の達成度評価基準



達成率100%以上



→達成率80%以上



→達成率80%未満

方針	目的	目標	具体的な取り組み	達成度 ()内は 実績値			
研究	2.地域の企業・行政・研究機関との協働による環境科学技術研究を重点的に推進する。大学キャンパスや施設を活用し、地球温暖化防止、資源共生、資源・エネルギー利用等の革新技術の実現化立証に供する。	大学キャンパスや施設を活用した、地球温暖化防止、自然共生等の革新技術の実現化	カーボンフリー大学推進のためのMIEUポイント制度の構築と運用開始	<p>評価:各学部は、『カーボンフリー大学推進のためのMIEUポイント制度の構築と運用開始』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施回数を設定しています。 実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。 医学部に関しては、全学目標として共通教育を通じ取り組みを実施しました。</p>			
				人文学部	MIEUポイントの導入に協力する。	(1回)	
				教育学部	学部・学科教員による環境研究成果を学部内で共有する(メール等活用し報告した回数)	(1回)	
				工学部	工学部教員による該当する研究成果を調査し、学部内で共有する。	(1回)	
				生物資源学部	MIEUポイント制度に関する講義「環境教育実践(MIEUポイント)」の一部を担当し、制度の構築に貢献する	(4回)	
地域イノベーション学研究科	スマートキャンパス計画の有効性について、学内のデータを基本として研究する。	(6回)					
社会貢献	3.自然環境を生かした美しい大学として施設を創設・整備して市民に開放しつつ、地域社会で活動する各種環境団体・市民団体・企業・行政等との協働の場として活用し、情報発信の拠点とする。	三重大学独自の環境主軸のUSR規範の検討と確立	USRの考えをもとに環境イノベーション(社会的意義のある新たな価値を創造)を検討し環境報告書に作成して活用する	<p>評価:各部局(学部を含む)は、『USRの考えをもとに環境イノベーション(社会的意義のある新たな価値を創造)を検討し環境報告書に作成して活用する』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施内容を設定しています。 実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。</p>			
				人文学部	町屋海岸再生プロジェクトへの参画を促す。	(2回)	
				教育学部	環境報告書に掲載する環境教育の23年度の成果をまとめ、部局の環境管理推進センター員に報告をする。	(1回)	
				工学部	工学部で取り組まれている環境研究からいくつかを抽出し、環境報告書作成に情報提供する。	(1回)	
				生物資源学部	紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンターを利用した環境啓発活動を行い、環境報告書で報告する	(4回)	
				地域イノベーション学研究科	大学の社会的責任(USR)としての環境イノベーションに関して、教職員と学生が話し合う場を提供する。	(1回)	
				監査チーム	具体策実施自体が1つの目的/目標であるかのように一人歩きし、本来の目的/目標を達成するための具体的施策になっていない箇所があれば、再検討の必要性等について意見具申を行う。	(1回)	
				環境ISO学生委員会	三重大学の環境報告書の作成に環境ISO学生委員会の活動を記載する	(2回)	
業務運営	4.全学が、ISO14001規格に準拠した環境マネジメントシステムを運用することにより、大学自らが資源の活用やエネルギー消費低減に努め、低炭素社会・循環型社会の実現に向けて努力する。	2020年までにCO2排出量を1990年度比30%削減	2015年までにCO2排出量を1990年比で15%削減(エネルギー使用実績の調査・評価・運用改善・設備改善)	<p>評価:環境ISO学生委員会は、『2015年までにCO2排出量を1990年比で15%削減』並びに『紙の適正使用方法の継続と不要(ミス)コピーの削減』、『廃棄物排出時の資源分別手順の確立と学内周知』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施内容を設定しています。 実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。</p>			
				環境ISO学生委員会	省エネルギーに関わる活動を実施する(実施回数)	(5回)	
業務運営	紙使用量の削減	紙の適正使用方法の継続と不要(ミス)コピーの削減	紙の適正使用方法の継続と不要(ミス)コピーの削減	<p>根拠</p>	環境ISO学生委員会	学生委員会全体に紙の削減啓発及び、紙の使用量のチェックを行い、記録をする。	(12回)
				環境ISO学生委員会	大学の3R活動を全学に周知する	(6回)	

※具体的取り組みに対する評価は、環境管理推進センターが平成24年度EMS年間実施計画書の実績からまとめた内容です。